

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 2 月 23 日 (2006.2.23)

【公開番号】特開 2003-241215 (P2003-241215A)
 【公開日】平成 15 年 8 月 27 日 (2003.8.27)
 【出願番号】特願 2002-35946 (P2002-35946)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/1345 (2006.01)

G 0 2 F 1/1333 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/1345

G 0 2 F 1/1333 5 0 0

G 0 2 F 1/1333 5 0 5

G 0 2 F 1/1335 5 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 2 月 10 日 (2005.2.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

上記表示部においては、図 2 に示したように、駆動基板 11 の対向基板側の面に、データ線に電氣的に接続されたソース電極 12 a とドレイン電極 12 b とが離間してそれぞれ設けられており、これらソース電極 12 a 及びドレイン電極 12 b に隣接して半導体層 12 c が形成されている。半導体層 12 c の駆動基板 11 と反対側には、開口部を有するゲート絶縁膜 13 を介して、図示しない走査線に電氣的に接続されたゲート電極 14 が形成されている。すなわち、駆動基板 11 の対向基板 21 との対向面には、T F T が設けられている。T F T は、後述する画素電極に対応して例えばマトリクス状に配置されている。ゲート絶縁膜 13 及びゲート電極 14 の上には、互いに離間するように設けられた凸部又は凹部 15 のパターンが形成されており、凸部又は凹部 15 のパターン上には、開口部を有する誘電部材としての平坦化膜 16 が設けられている。平坦化膜 16 の上には、画素電極としても機能する反射膜（反射電極）17 が形成されている。この反射膜 17 は、平坦化膜 16 及びゲート絶縁膜 13 に設けられた開口部を介して例えばドレイン電極 12 b に電氣的に接続されており、上述した T F T により電圧が印加される。なお、この駆動基板 11 は、更に、図示しない配向膜等を備えている。